

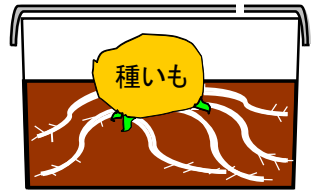
ジャガイモシストセンチュウから ジャガイモを守る技術を開発しました

- 生産者自らが、**カップ検診法**によりジャガイモシストセンチュウ(*Globodera rostochiensis*,以下Grと略)被害を予測できるようになりました。
- 被害予測に応じて**抵抗性品種**を選択すれば、**減収が回避**でき、**Gr密度を大幅に下げる効果**もあります。
- 輪作に**緑肥**としてナス科**対抗植物**(栽培することで密度を減らす植物)を導入すれば、**Gr密度をさらに低下**できます。

★難防除の害虫(Gr)が北海道のジャガイモ産地に侵入、他地域へも拡大中

★従来品種はGrに弱くジャガイモ栽培大打撃 → **抵抗性品種の育成・利用を核とした効果的な対策を確立**

シストを見つけて被害を予測 (カップ検診法)



観察シスト数から**被害予測**

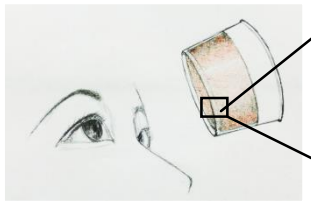


低密度 → ほぼ減収なし
観察シスト数: 1~20個



高密度 → 50%以上減収あり
観察シスト数: 100個以上

- 蓋付き透明プラ容器使用
- 検診土壌 50~125ml
- 室温暗黒で8週間培養



シスト判別

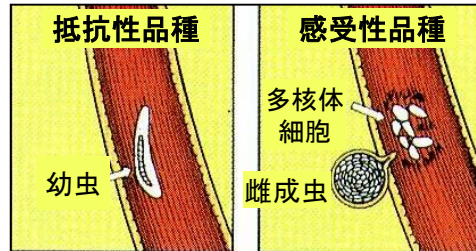
※シスト: センチュウの卵数百個が殻に包まれたもの

抵抗性品種で減収回避・密度低減

抵抗性品種の栽培で**Gr被害回避**

食べておいしい 家庭用 キタアカリ とうや はるか ピルカ 紫月	サラダやチップス 加工業務用 こがね丸 さやか きたひめ
機能性を備えた カラフルポテト キタムラサキ ノーザンルビー	でん粉原料用 アーリースターチ パールスターチ

男爵薯、メイクインは感受性品種です!



→ 幼虫の周りに壁、死亡 → 養分を奪い成熟

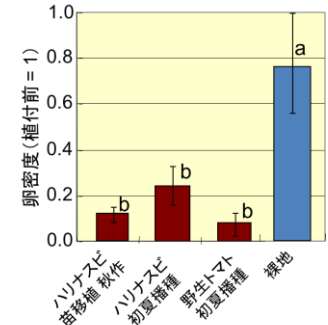
対抗植物でさらに密度低減

対抗植物: 栽培することで密度を減らす植物



野生トマト

ハリナスビ



ナス科緑肥1kg/10a播種、70日栽培で

Gr密度80~90%低減

☎ 詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。

(国研)農研機構北海道農業研究センター 企画部産学連携室広報チーム

TEL:011-857-9260 FAX:011-859-2178 Email:cryoforum@ml.affrc.go.jp